

平成23年度学校評価中間報告

					石川県立翠星高等学校		
重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	校内の環境・美化に積極的に取り組む。	保健課 特活指導 各年次 各分掌 各コース	毎年、環境・美化週間を実施しているが、十分とは言えない。学校版環境ISOに対する意識もややマンネリ化が見られる。	【努力指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境・美化に積極的に行動した生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	全教職員 各年次 各学 各研究会	ふるさと石川の「里山里海」の現状や課題について、理解していない生徒が多い。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	地域の環境保全のためのボランティア活動への積極的な参加を奨励する。	全教職員 各年次 特活課 各コース 各研究会	現在、研究会を中心に地域の環境保全のためのボランティア活動に参加しているが、学校全体では参加者が多くない。	【成果指標】 地域の環境保全のためのボランティア活動への参加者が増える。 悪天候で実施出来ず。	地域の環境保全のためのボランティア活動に参加した生徒の割合は A 50%以上である。 B 40%以上50%未満 C 30%以上40%未満。 D 30%未満	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	月ごとの参加報告書を集計
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	各教科 各年次 教務	昨年のアンケート結果では、少しでも基礎学力を身につけることが出来たと思う生徒は、61%であった。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組む、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、内容を、指導法を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	生徒の授業評価アンケートや研究授業、互いの授業参観等を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教務科 各教科 全教職員	着実に授業改善が行われているが、昨年の授業アンケート結果では、一昨年同様「分かる授業」は全体の半分程度であった。	【満足度指標】 授業の工夫・改善で「分かりやすい」と満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	適切な課題を課し、家庭学習の習慣化に取り組む。	各年次 各教科	家庭学習に取り組んでいる生徒は二極化し、全く取り組んでいない生徒も多い。（昨年度44%）	【成果指標】 家庭学習に取り組む生徒が増加している。 指導の工夫が必要である。	家庭学習に取り組む生徒の割合は A 80%以上であった。 B 60%以上80%未満であった。 C 40%以上60%未満であった。 D 40%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進路指導 各年次 各学 各教科	昨年度の進路決定率は大変良かった反面、キャリア教育が進路決定に参考になった生徒の割合は62%であった。	【満足度指標】 3年間を見通した各年次のキャリア教育が進路決定の参考になっている。	各年次のキャリア教育が進路の参考になった生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	C、Dの場合は、内容を、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	登校指導や授業等を通して挨拶の習慣化に積極的に取り組む。	生徒指導 全教職員 各年次	大きな声で挨拶ができる生徒は増加しているが、自発的な挨拶がまだ少なく、習慣化していない。（昨年度61%）	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶できる生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	全教職員 生徒指導 各年次	一昨年減少した遅刻者数が昨年には再び増加した。 前年比増であった。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ遅刻者の減少割合は A 30%以上であった。 B 20%以上30%未満であった。 C 10%以上20%未満であった。 D 10%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	生徒指導課による遅刻者集計で報告
	社会人として必要なマナーの向上に取り組む。	特活指導 生徒指導 全教職員 各年次	全体的にマナーは着実に良くなっているが、身なりや言葉遣い等がまだ十分できない生徒も多い。（昨年度74%）	【成果指標】 マナーの向上に取り組む生徒が増加している。	マナーが向上したと思う生徒の割合は A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活指導 農業 クラブ 全教職員 各年次	1年次は部や研究会に全員加入としており、2、3年次になると辞める生徒が増え、昨年度は積極的に活動した生徒は56%であった。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動した生徒の割合は A 70%以上であった。 B 60%以上70%未満であった。 C 50%以上60%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	9月、1月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者の増加に取り組む。	農業科 各コース 各研究会 農業 クラブ	昨年度は学校枠及び県内予選で計12名が出場したが、意見発表及びプロジェクト発表は出場できなかった。（昨年2名出場した情報処理競技は今年度より廃止）	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上であった。 B 11名以上16名未満であった。 C 6名以上11名未満であった。 D 学校枠のみの6名であった。	C、Dの場合は、指導法、方を再検討	全国大会の出場者数を確認